

西尾氏・立候補宣言記者会見（全文）

日時：平成19年2月24日（土）午後2時～

場所：函館国際ホテル1

はじめに

市長選に立候補の要請を受けましたが、この間私を励ましていただき、市政を憂いて集まってくれた仲間の皆さんもおられます。本当にありがとうございました。

一昨日、齋藤会長をはじめ、40年来の付き合いがある高校同期の皆さんから、4月22日の市長選に立候補するようというお誘いを受けました。この間、同期だけでなく、市議会の皆さんや職場の若い仲間の皆さん、市民の皆さんから、メールや来訪、お電話を通してたくさんの励ましをいただきましたことをこの場をお借りして心からお礼を申し上げたいと存じます。

昨年12月に辞表を提出して以来、いろんな経緯、経過がございましたが、ここまで選挙が近付いて、事ここに至っては私自身がすべての責任を引き受けるという気持ちを固め覚悟すべきだろうと考えるに至りました。市長になるというのは大変なことで、プライバシーがほとんどなくなるという覚悟をした上で立たなければなりません。私を推してくださっているたくさんの仲間の皆さんと力を合わせて現状の市政を改革することに力を尽くしていきたいと考えております。それが、市民のため、市役所の中でまじめに働いている職員のためにも必要だと思い、最終的に妻にも了解を得て会見に臨んでいます。

選挙に臨むにあたって、マニフェスト、政権公約をまとめさせていただきました。マニフェストは具体的に4年間で何をやるのかというお約束です。これは、無風選挙にはしたくない、どなたか立っていただきたいということで、どなたが立たれても函館市のために必要なことを2月に入ってからまとめてきたものです。若い職員がまとめて日の目を見なかったことも盛り込んでいます。

マニフェストに入る前に、対立候補として出るからには争点がなければなりません。どこが違うのかということをもとめると3つだと考えています。3つのことで市民の審判を仰いで信を問うことをしたいと思います。

3つの争点 1 政治倫理

ひとつは、職員に不法な許認可を迫り、断れば脅迫的に迫ってきているマスコミ（情報誌）の方と市長・議長が非常に親しい関係にあることです。たとえば、私に部下がいて、部下が毅然と対応しているのを攻撃されているのに、「私は関係ない、あんた個人的なことでしょ。私はそこと親しいのだから」ということでは組織は成り立ちません。誰も働かなくなります。

ましてや市長は政治責任者ですから、政治倫理が問われます。そういうことでいいのでしょうかと市民に問わなければならないと思います。部下が正しいことをして責められている時に、私は先頭に立つてつぶされてやるというつもりで仕事をやってきました。その倫理観が問われていると思います。

3つの争点 2 水族館

もうひとつは水族館の問題です。昨年の秋に市民世論が2分する中で、財政の問題もこれありということで市長は水族館の建設を凍結しました。議員の皆さんもこれを井上市長の英断であるとして高く評価され、9月議会12月議会をくぐってきました。したがって対立候補も立たない中で、今回リーフレットを見ますと、3選を果たせば「市民理解を得て建設を実施する」となっています。

本当にそれでいいのでしょうか。市民世論が2分されて反対が多い中で作っても、できる施設が不幸です。将来に対する赤字の大変な不安もあるという状況で、私は、遠い将来の課題としてはあるかもしれないがやはりやめるべきだと思っています。もしやるとすれば、子どもたちの教育ということで研究施設を公開して体験学習をすとか、海に親しむ教育にお金をかけていくべきだろうと思います。また、少子化の時代なので子育てや教育にお金を投資していくべきだろうと思います。

3つの争点 3 まちの元気

3点目は、大変な人口減少の時代が来ています。今の時代の落ち込みは後戻りのないものです。そういう時代に街が元気になる処方箋は何なのでしょう。私は、子どもを育てて、人と技術の力を高めていくしかないと思います。北海道には年間4兆円のお金が入ってきています。生産して出て行くお金は2兆円。2兆円は北海道にたまっていきます。しかしそのお金は北海道に投資されていません。北海道の銀行に預金されたものは東京やファンドを通じて欧米、利回りの高いところに投資されています。なぜか。利回りが高いということは人がいて技術力が高いということです。北海道に滞留している2兆円が北海道に投資されるようになれば、明日にでも北海道は良くなります。ですから、北海道を良くするには人と技術の力を高めて、地域づくりをしなければなりません。

今後の政治活動

この選挙戦を戦うために、広く現状の函館市を憂いている市民の皆さんひとりひとりが選挙事務所に結集していただきたいと思っています。特定の政治家や政党と相互協定を結んだり推薦をいただいたりすることはありません。あくまでも有志の方の集まりで草の根の運動をします。私はアリババのつぶやきというブログを作っていますが、つぶやきが大きくなうねりになって、街を変えていくということにしていきたいと思っています。

仮に私が市長になった場合、当然最高責任者ですから、すべての責任は負うつもりであります。ただし、これは私の権力ではございません。周りで包んでいただいている皆さんの権力です。そういう権力像で市政を組み立てていきたいと思っています。

マニフェスト

具体的なマニフェストですが、福祉施設の不法な許可問題を巡って明らかになったことは、密室の中で特定の人になれあい政治を行っており、なあなあで淀んでしまった函館市政にほかなりません。

職員に対し不法行為を脅迫的に迫る利権目当ての雑誌社と市長・議長・経済界首脳との親しい・親密な関係は、公平・公正な行政と社会正義を危うくするものです。

このような利権の構造を正し、市役所の持つ旧態依然とした文化・風土を変えていきたいと思っています。33年9ヶ月勤めてきましたが助役の立場ではなかなかできませんでした。それを変えた上で、若い人を育てたいと思います。若い人が夢と希望を持って、自由に発言し、連帯してまちづくりに取り組んでいける「新しい函館市政」を作っていきたいのと考えます。

なんと言っても函館の未来は、若い人たちの手にかかっており、その手に委ねていきたいということです。

これからの「新しい函館市政」4年間の取り組みの考え方と目標、進める行動計画を出来るだけ具体的に示すため、マニフェストをまとめました。これはたたき台で、修整もしていききたいと思いますので、市民の皆さんのご意見もお寄せください。

【市政の考え方】

1. 開かれた明るい市役所をつくります

・私たちの市長は 雲の上の偉い人ではなく、みんなの能力を引き出すオーケストラの指揮者のイメージです。調整役・マネージャーが市長です。ロシアや中国などに行きましたが、外国の指導者像と日本の指導者像はまったく違います。外国では40代や30代の首長がいて、明治維新と同じです。若い人が意欲を持って取り組んでいます。功を成し名を成した人がトップになるのではなく、みんなの利益調整をしてマネージャーとして働いていて、新しいことをやる意欲に燃えているのが諸外国。日本は官僚国家で取り残されているのではないかというのが実感です。これからの首長はみんなと同じ服装をし、同じように汗を流して現場から出発し仕事をするという人間になりたいと考えます。

・市政は 市長室のちょうつがいを外してドアを取り払います。みんなオープンにしてガラス張りの市政を作ります。

たとえば今年の資金のフレームをどうするかという時に、勉強会をやります。勉強会をやると流れがよくわかります。しかし結果だけ議会に知らされます。だから、プロセスも含めて公開したいと思います。そうすると、今お金があるのかどういう資金があるのか、よく市民の皆さんも分かります。非常に簡単なフレームです。公開して、みんなで意識を共有することができると思います。これはお約束します。

・市役所の組織は シンプル・イズ・ベストです。たくさんの職員が打ち合わせに来るようなことはしなくてもいいのではないかと思います。プロジェクト制のようにして、責任分担をきちんと決めれば1人2人で事業を進められます。そういう効率のいい市役所を作ります。

・市役所の構成は 市民の頼れるサービスの拠点・市民の企業活動や団体の活動を助けてくれる事務局・地域の将来を切り開く旗を振る先導隊としての3つの役割を負うべきだと思います。事業を進めるためには、民間や他の機関などいろいろなところから人材を引っ張って市役所を構成していきたいと考えます。ヨーロッパでは市役所の企画部長は大学の教授が5年間赴任していたりして、流動的です。市役所にも民の力を入れて違った血を入れていくことをしたいと思います。

・市役所の作風は 若い職員が自由かつ達に議論をしてのびのびと仕事をするという気風・風土を作っていきたいと思います。つぶれる組織はみんなが下を向いて仕事をしている組織です。リーダーが替わるとみんな目を輝かせ、上を向いて仕事をしています。こういう組織に変えていきたいと思います。

2. 時代の危機感を共有します

人口問題が一番大きな問題です。昭和 55 年くらいが函館市の人口のピークで、52 万人くらいおりましたが、60 年代からずっと減っています。60 年から平成にかけては、国鉄の分割民営化や造船不況などの理由がありました。

バブル以降は周辺町への人口流出が続いていました。それは函館市の自治体経営としては難しくなりますが、圏域全体のパワーとしてはそれほど変わっていませんでした。

平成 12 年の国勢調査以降、傾向が明らかに変わっています。昨年の統計では 3500 人、人口が減っています。1000 人は自然減。生まれた 2000 人が 30 年後に何人赤ちゃんを産むかといえば、現在の出生率で言えば 800 人しか産みません。後戻りのない時代で、このことを何とかしなければなりません。

また、周辺町ではなく、有効求人倍率が高い東京・東海を中心に 2500 人が流れています。若い人がいい職、定職を求めて流れていきます。しかも 30 代 40 代が家族を連れて流れていくのが今の状態。これをなんとかしなければなりません。

規制緩和によって派遣やパートが増えていますが、市民所得を上げ、正規雇用を増やしていかなければ大変なことになります。

3. 殖産興業の心をはぐくみます

・私達のお手本は 江戸自体の上杉鷹山など、苦しい時代には人づくりから始めました。函館ももともと市役所なんてないに等しかったですから、みんな私財をなげうって育児会社を作ったり、教育事業を行ったり社会事業を興したりした歴史が連綿と続いています。そういう意味では、中世の自治の町は堺ですが、近代の自治の町は函館市だと思います。その原点に戻る必要があるのではないかと思います。今度は私達が若い人を育てて文化を育む時代に入っていると思います。その上で函館らしい、函館にしかない産業や文化が育ち、市民生活を支えると同時に存在感のある街になれば世界にも貢献していけると思います。

【市政 4 年間の目標】

1. 「教育立市・人材育成都市」をめざします

人と技術を育てることに集中投資したいと考えています。そして、企業の社長さんも正規雇用を少しでも増やすように努力しましょうと訴えて市民運動を起こしたいと思います。

2. 4 年後の目標値を次のとおりとします。

- ・出生率と出生数 10%アップ
- ・就業機会 10%アップ
- ・正規雇用者数 10%アップ
- ・市民所得 10%アップ

これは市役所だけではとてもできないので、みんなでやりませんかと言いたいです。

今は、ものすごく儲けるかワーキングプアみたいになるかという極端な時代になっており、地域も国もいずれ荒廃していきます。政策として若い人が安心でき、夢と希望を持てるような地域にすることに力を入れたいと思います。

よく政治家はお年寄りの福祉や安心が大事だと言ってきましたが、このままではお年寄りを支える若者がいなくなります。やはり若い人中心の政策を組み立てたいと考えます。

【主な行動計画】

．子ども達の笑顔のために

みんなが幸せでなければ、子どもだって暗くなります。そのためにはまず、人とまちが健康でなければなりません。「健康」をキーワードに、子育てから教育・文化、市民生活の安心・安全の施策を進めます。

市民の健康づくりの推進

・健康づくり推進室の設置

健康増進課が保健所にあります、すごく好評です。これは保険所でやっています。総合福祉センターは福祉の観点でやっています。社会体育の観点で体育館もやっています。これをつないで、保険所が中心となって連携して健康づくりをやっていきたいと思えます。

・ガン検診受診率の向上

函館市はガン検診受診率が全道主要都市の中で最下位です。予算を付けていないからです。これを増やします。

・総合療育センターの設立

障害児(者)施設3園が国の政策によって進められますが、早期発見や療育をシステム的にきちんとできるように医師も付けて療育センターを立ち上げたらどうかと考えます。

・地域の高度医療連携の推進

中央病院・五稜郭病院・市立函館病院・日赤・協会病院・共愛会病院など総合病院がありますが、個々バラバラです。商売がたきではありますが、それぞれ連携して互いにいいところを特化していくことが必要です。

偉い人やお金のある人は、たとえばガンだと言えはここで手術しないで東京の病院に行ったりします。それはおかしいと思えます。地域で信頼できる分野ごとの医療をみんなで作っていこうと思えます。私も函館の病院にかかります。

・夜間急病センターの移転・充実

今あるセンターは老朽化してきています。きちんと安心できるものを作るため移転が必要だと思えます。

温かい介護・福祉サービスの推進

・介護・福祉施設等職員の人材育成

若い人が専門学校を出て就職しても、労働条件が悪ければ、東京の介護施設などに出て行ってしまい

ます。いい人材がいなくなるので、底上げが必要です。介護・福祉施設の職員の処遇も良くする、若い人を安心させることをしたいと考えます。

- ・障害者自立支援法による利用者負担の軽減

1割負担が重くのしかかっています。他都市でも3割・5割のカバーをするなどされているので、函館市としてもやっていくべきだと考えています。

水族館はつくりません！

コクドにお願いしたとき、30数億円で作るということでしたが、メインバンクになる日本政策投資銀行が「リスクが大きすぎて貸せない」と言ったために断念した経過があります。その時井上市長は、20億くらいで社会教育施設として作りたいということでした。

しかし、20億では何もできないということでもどンドン膨らみ、今は50数億、港湾事業も含めると恐らく60億を超える計画になっています。これは函館市の人口の状態や経済の状態を考えればリスクが大きすぎるので、私としては作らないということで収束したいと思っています。

むしろ、今は全然予算を投入していない海を知る教育などにお金をかけるべきだと思います。数百万もいらず、数十万でできます。

子育て支援の推進

- ・小中学生の社会教育施設利用の無料化

50円や100円お金を取るより、事務手続きを考えればただで開放したほうが効率的です。

- ・第3子以降の保育園・幼稚園・小中学校など各種費用の無料化

2.1 人子どもを産んでくれば、人口の平衡は保てます。3人目は社会的コストとして中学生くらいまでは無料にしたいと思います。

- ・保育料の大幅軽減（第2子の負担割合軽減を含む）

函館市では国より軽減し、1億5000万円くらい負担しています。軽減率は17%です。主要都市では、札幌市が37%、旭川では40%くらい軽減しています。

現状ではお母さんたちは保育料を払うために働いているみたいなのところもありますが、他都市並みに大幅軽減する必要があると思います。また、中間層までの所得の低い方を優遇するようなことも必要だと思います。

- ・近隣自治体の小・中学生までの医療費助成など各種支援制度の不均衡是正の検討

北斗市は中学生まで医療費タダです。函館市は3割負担です。北斗市は全国でも破格な制度で、そこまでやっている自治体はありません。函館市で中学生まで全部タダにすると5億円かかります。どこまでやれるかという問題はありますが、隣の自治体と格差が付くのも問題なので、やらなければならないと思います。

- ・施設を必要とする全学童保育所への公共施設等の確保と指導者の育成・支援

29ヶ所の学童保育所の中にはボロボロのところもあり、数年間のうちにすべて公共施設の中に入れた

いと思います。

- ・既存児童館の地域コミュニティ施設「ひろば館」への再編検討

児童館は小学生が本来対象ですが、9時から5時までやっても3時くらいまでは学校に行っているから誰も来ません。先進的な館長さんは母親学級をやったりしていますが、システム化されていません。これをもっと広く、地域のコミュニティ館として大人も含めて使えるような館に再編していくべきだと思います。

子ども会や少年団など子ども育成活動への大幅支援

年に1～2回行く水族館よりも、毎日のように通っている子ども会や少年団、クラブ活動などが大切です。こうしたことに市は一銭もお金を出していません。たとえば遠征に行くとか、そういう時にお金を出してあげるくらいはやってあげる必要があるのではないかと考えます。そういうお金のほうが生きていくのではないかと思います。

校長先生の「知恵の予算」の確保

「特色ある学校づくり」にはお金が必要です。教育委員会で支配しないで、校長先生の裁量で使える予算、100万円くらいを付けます。創意工夫で自由に使ってもらって、モデル事業を立ち上げ、いいものは全校に広げていくことをしたいと思います。みんなで知恵を出そうという予算です。

花いっぱい・はだしで走れる小学校づくり

小学校が花と緑に包まれれば地域がきれいになります。芝のグラウンドを作り、子ども達のはだしで走れるようにします。

子どもなんでも相談110番の設置

いわゆるコールセンター的なものです。教育委員会・保健所・福祉部は専門家集団です。それらを一ヶ所に集めるのは無理ですが、きちんと連携してできるようなコールセンターを作ります。「困ったことは何でも相談110番にかけてください」とやってみたいと思います。

市長直結の「子育て推進室」を創設します。

地域固有の文化づくり

- ・五稜郭フィールド・ミュージアム構想の推進

五稜郭周辺一帯を野外博物館に見立てて整備します。夜間照明を付けたり、ベンチを作るなど、潤いのある地域にしたいと思います。市民の本当の公園、ぜいたくな公園になると思います。

- ・箱館奉行所の復元整備、南茅部縄文遺跡群・縄文文化交流センターの整備

- ・旧ロシア領事館の復元、青柳町旧図書館本館の活用検討

日本全国に4ヶ所しかないロシア領事館が函館にあるのは、旧ロシア領事館が保存されていることがきっかけです。何とかこういう経過を踏まえて復元したいと思います。

個人が私財を投じて運営しているはこだて写真図書館の資料は全国一です。これを旧図書館に入れる

なども含めて検討したいと思います。

美しいまちの形成

- ・地区別での魅力ある都市景観の創出

都市景観条例をもう一度見直したいと思います。ウォーターフロントの整備は終わり、今度は 100 年の大計として大森浜側を整備すべきとの指摘もあります。

- ・大森浜散策道、展望広場等の整備推進

将来的には、ウッドデッキを浜につなげていくなども可能になります。

- ・ごみゼロのまちの推進

京都や北陸の古都金沢にはごみひとつありません。住民が自分の家の前を掃く習慣があるそうです。そういう市民運動を盛り上げたいと思います。

- ・空き地・空き家対策の強化と大規模土地所有対策による土地の流動化

既にやっていますが、もっと強化しなければなりません。コンパクトシティを考えれば、大土地所有者は放出していただかなければなりません。条例で固定資産税を上げて放出するように仕向けることも可能だとのことなので、それに向けて研究をしたいと思います。

都市交通施策の推進

- ・エコロジー・パス(環境定期券)発売の検討

これは乗り放題定期券です。今週休 2 日なのに 25 日で計算した定期券なんて買う人はいません。ドイツでは環境定期を発売し、中心市街地には車を入れない政策をしています。函館ではそんな極端なことはできませんが、たとえば 5000 円でいつでも乗り換え自由となったら、路線の組み方も簡単になります。これは採算性を考慮したことがあります、やれると思います。

これは全国初の制度になります。たとえば何十億をかけてバスターミナルを作るとかやっても、地方都市でうまくいった試しはありません。しかし、ソフト面で改革すれば絶対良くなります。日本の公共交通を改革する大きなきっかけとなりますので、ぜひやりたいと思います。

．地域の未来のために

函館は、国際海峡を有し北海道・東北「北東日本」の中心です。東京と地方のかかわりではなく、東京とアジア太平洋圏とのかかわりで発展していくべき地域です。もう一度自分の地域を見直した時、函館には地理的優位性もあり、歴史性もあり、さらに商業・貿易・産業・教育・学術研究機関もオリジナルなものが集積しています。それなのによく「函館は眠っていますね」と言われます。

ですから、地球時代が到来している今日、私たちは、新たな発展の可能性は東京との関係ではなく、将来目標を極東アジアのセンターにしたいと考えます。そうした価値のあるまちづくりをしたいと思います。

1．知の集積と産業創出プロジェクトの推進

キャンパス都市の形成

- ・大学センターの設立による大学間連携の促進
単位互換や教官の相互連携をします。現在はセンターを作るのに1人の主査が必死でやっていますが、3人4人投入すれば必ずできると思います。
- ・共同研究センターの拡充による大学と企業との連携強化
企業からの研究費や中国との連携などが行われています。こうしたことを支援して、世界の中で生きていける大学を作っていきたいと思います。
- ・大学の国際連携(姉妹校・学术交流等)への支援
函館大学も育てなければなりません。子どもがいないからつぶれるなんてことにしてはいけません。
- ・私立大学等の特色づくりへの支援拡充
私学助成はしていますが、それとは別に特色作りへの支援をします。
- ・ロシア極東大学函館校の市立大学化と極東地域の情報センター化
極東大学があるおかげで、函館が極東のセンターになるとロシア人は見えています。人材育成の点で函館は素晴らしいという目で見てくれています。これをきちんと基盤のあるものにするため、市立化したいと思います。また、極東地域の情報センターとして権威ある組織にしていきたいと思います。

国際水産・海洋都市構想の推進

- ・水産・海洋都市推進機構の設立
今の役所組織だけでは足りないので、機構をきちんと作って推進します。
- ・水産・海洋総合研究センターの整備
- ・研究者・研究所・関連企業の誘致
西部地区を、研究所・研究者が集まる地域にしたいと思います。
- ・旧ドック跡岸壁整備による調査船等の寄港基地化

国際観光・コンベンション都市の形成

- ・函館らしい都市イメージ・観光デザインの確立と情報発信
函館ならではのイメージを売り込んでいくことをしたいと思います。
- ・夜景グレードアップなど観光資源の充実
- ・コンベンション施設の整備
大沼のセミナー施設は非常に良い施設ですが、少し遠いのとキャパが200人程度で少し小さいという問題が参加者から指摘されています。また、道の保安林でレストラン営業ができず、利便性が悪いとい

う面もあります。

もし、500人規模のコンベンションなら幾らでも函館に呼んで来られます。マーケットリサーチや経済界との話し合いが必要ですが、緑の島に建設すれば優位性があるのではないかと考えます。ホテルとバッティングするなどと言わず、それ以上呼んでくればいい話です。昨年函館では100以上のコンベンションが開催されています。もっとも呼んでこられますので、早い時期に整備したいと考えます。その際はデザイン性の高い施設を作りたいと思います。

また、文化の街、コンベンションの街として売り出せば、宿泊・輸送・食事・印刷など大変な産業になります。

- ・コンベンション誘致・受入れ実施体制の充実

- ・観光コンシェルジュ(総合案内)機能の確立

国際交流・貿易の促進

- ・姉妹都市(5都市)交流の促進

- ・北海道国際交流センター等による国際貢献活動への支援

市民だけでこれほど国際交流をしている組織は全国にもありません。国際レベルです。何とか基盤を強化するために支援したいと考えます。

- ・国際貿易センターの機能強化とサハリン・プロジェクトなど貿易の促進

- ・国際定期コンテナ航路の充実

港の機能がなくなれば、水産加工場が函館にある意味はなくなり、もっと輸送コストの安い土地に行った方がいいことになります。原料の輸入から生産、保管、出荷まで一貫した体制を持つためには港が重要です。

定住者誘致事業の推進

滞在型生活体験事業・住宅情報の提供など各種サービスを提供し、団塊世代の定住を促進します。

力強い地場産業(一次・二次産業)づくり

- ・沿岸漁業「日本一のまち」の推進

函館は沿岸漁業日本一のまちです。合併地域は一次産業としていい地域づくりができるのではないかと考えます。

- ・農水産基盤の整備・高度化と担い手の育成

- ・ITやバイオなど新産業の創出と企業の誘致

- ・函館ブランドの顕彰と情報発信

小樽では博物館に「今年の小樽ブランド」が飾られています。たとえば西波止場にそういったものを作り、「今年の函館ブランド」を周知したら良いと考えます。

- ・ 中心市街地の活性化と商店街の特色づくり支援
- ・ 函館リサーチ&ビジネスパーク構想の推進
- ・ 函館地域産業振興財団の機能充実

産業・労働政策推進体制の再編・強化

- ・ 既存経済部局を産業政策部と観光・コンベンション部に再編検討

今は商工観光部と農林水産部に分かれています。商工観光部は毎日お客さんへの売り込みやおまつりを行ない、忙しく過ごしています。そのため、短期的な産業政策はできますが、長期的な産業政策はなかなかできません。

ですから、観光・コンベンションと産業政策を分けたほうがいいのではないかと思います。

- ・ 労働政策室の設置

今は庶務担当課が片手間で労働政策をやっています。実態は何もやれていません。若い人に安心してもらうためには正規雇用を増やさなければならず、そのために労働政策としてプロジェクトを立ち上げたいと思います。

2 . 陸・海・空総合交通体系の整備

- ・ 北海道新幹線新青森～新函館間の早期開業
- ・ 新幹線時代に対応したまちづくり
～ 特に関東以北の地域を視野に、交流の促進と地域の魅力づくりを図っていきます
- ・ 縦貫自動車道、新外環状道路、国道 278 号など幹線道路の整備
- ・ 若松地区旅客船ふ頭など函館港の整備
- ・ 国内・国際航空路線の充実と新規航空路の開設

. 市民の自治を拡げます

昔、市役所でいいまち・元気なまちってどういうまちなのだと議論をしました。いいまちとは、市民が、企業も団体も、元気で地域のコミュニティも元気なまちがいいまちだということで作ったのが今までの函館市の 10 ヶ年の総合計画です。

その延長上に、市民の自治を拡げ、「市民の手による市民のための市民の市政」を作りたいと思っています。

部局長の「人づくり・知恵の予算」の確保

・人づくり事業の推進

池田町のワインや旭川の家具は、予算を付けて職員や職人を勉強に行かせた結果として現在有名になっています。函館の人づくり予算は生きていないので、各部局長で考えて各分野の企業・団体などの人材育成を進めるために予算を付けたいと考えます。

行財政改革の推進

・簡素効率化などによる職員数の削減

函館市は職員が多いです。昔交通局にいた職員が600人配置転換で一般部局に配属になりました。また、亀田市と合併して500人増えました。また、旧4町村と合併して500人増えています。これをリストラしていくのに、5年くらいかかります。みんなが生きられるように着地点を見出して減らしていかなければなりません。

・アウトソーシング(外部委託)の推進

「官から民へ」だけでは良くないと思います。アウトソーシング先が東京の資本だと税金に跳ね返ってきません。また、働いている人がパートや臨時の人ばかりだったりすると、その人たちは市民税を払えません。また、若い人は7万や8万では食べられないわけですから、当然優秀な人材は東京に行ってしまいます。地場の企業に委託する、正規雇用を確保しながら委託するという手法をとらなければ地域社会が荒廃します。

市民の目線を大切にされた科学的行政の推進

・市民意見傾向調査(課題別・随時)の実施

アトランダムで聞けばいいと思います。たとえば「水族館作るのってどうですか?」と。反対が多くても行政としてやらなければいけないこともあるでしょうが、ただ曖昧に反対が、あるいは賛成が多いのではないかというのは科学的とは言えません。

・市政モニター制度の設置

・職場倫理ホットラインの設置

何かおかしいことがあれば、職場の人たちが言えるように作りたいと思います。何となく日本的な心情だけでは駄目だと思います。

広域自治体函館市の形成

・合併旧町村への「地区制度」の創設

亀田や銭亀沢は地理的に近いので、今の民生関係の役目さえ支所があればいいと思います。しかし、旧4町村は行くだけで半日仕事です。今のままでいいのでしょうか。

それぞれの地域が自立的に生きられるような連合体が自治体ではないかと考えます。都市は都市のご

とく、漁村は漁村のごとく生きるような共生の地域はできないでしょうか。香港の1国2制度のように、1市5制度もできないかと考えていました。市職員は減らさなければなりません、旧4町村で2つくらいの地区を作って、助役クラスの特別職を置き、支所長も兼ねるとすれば、権威ある存在として処理していけるのではないかと考えます。

地域コミュニティの再生

- ・職員の地域活動・市民活動参加の推進

町会活動に高齢者しか参加しないという現状がありますが、市の職員は市民活動に参加してくださいとします。人事評価にも含めなければならないと思います。

男女共同参画社会の推進

自治基本条例の制定

行政の「市民化」の推進

- ・各種条例の「市民条例化」の検討

行政は難解で官僚しか分からないと思われていますが、条例の内容は一枚皮を剥けば非常に簡単です。これを市民の分かる言葉に置き換えて、約束条例として定めたいと思います。

これはたたき台ですから、みんなで議論して新しいものを取り入れてやっていきたいと思います。

ただ、私がずっと疑問に思っていたのは、全国の自治体の首長や幹部職員はそんなに偉くないし、普通の目線で記者にも一般市民にもいつでもお会いしますよ、という姿勢です。函館は異常だと思います。そういうまちを変えていきたいと思っていますので、せっかく市長にさせていただけるのだったら、そんな市長であり、私の権力ではなくみんなの権力を作るために立候補したいと思います。

長くて駄弁を弄したかもしれませんが、ありがとうございました。